

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名: TAKUMI 南千住教室

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令を順守したスペースは勿論のこと、建築喜寿法による用途を変更し運動のできるスペースを確保しており、基準の2倍以上のスペースとなっている。サーキットを2つに分けたり、個々で取り組む回数や内容を変えたりして運動量が確保できるように工夫している。ぶつかって危険な所にはクッションを置いている。	
	2	職員の配置数は適切である	法令で定められている配置数に加え、保育士、児童指導員等、その他指導員のいずれかを1または2名以上を配置する体制を取っており、しっかりサポートできる配置を行っている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	当事業所のプログラム内容や通所される児童の特性により、緩和を受けている。室内のトイレ前には段差があるが、こうした個所では人的サポートを行っている。トイレの段差以外はバリアフリー化が出来ている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	現在コロナウイルス感染増加の影響で、1クール毎に道具の消毒、窓の換気を行っている。他にも療育が終わった後に清掃を行い、清潔を保っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	ヒヤリハット、事故対策、会議議事録、感染対策、虐待防止対策、研修実施議事録、相談苦情、非常災害対策等々の担当者を割り振り、定期的なミーティングを行っている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	保護者向けアンケートを毎年1回実施し、評価の悪い項目については、今後計画的に改善を行っていく。また、来年度は顧客満足度調査を実施し、更なる業務改善に繋げていく予定。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	毎年HPで公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、今後実施していく予定。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	内部研修の他、外部研修にも参加し、全員周知・把握に努め、資質の底上げをはかり、療育支援に繋げている。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	児発管と指導員が、児童の様子と保護者の要望を確認しながら、個別支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	児発管と保護者の話し合いを行い、適切に選択し具体的な支援内容を設定している。「発達支援」、「家族支援」を重点的に支援を行っている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	年2回児発管と面談を行い、支援計画を立てその内容に沿って支援を行っている。ミーティング時に計画や目標を確認し支援を行っている。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名: TAKUMI 南千住教室

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	児発管と指導員全員で話し合い、プログラムの立案を行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	児童の発達・成長に合わせて、必要に応じて臨機応変に行っている。また、定期的にイベントを実施、それに沿った練習や目標を児童たちと立て取り組んでいる。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	契約時に適性を見極め各々のクラス設定をしている。児童の成長に応じ、クラス変更を児発管、指導員、保護者、児童の意見を聞きながら行っている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	毎日必ず支援開始前にミーティングを行い、児童の日々の様子をまとめた資料をもとに支援方法や役割分担を行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を設け、一日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点を洗い出している。記録を必ず残し、休みのスタッフへも情報共有を図っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	サービス提供記録へ記入し、更に独自の一日の情報記録用紙にも記入し、検証している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、モニタリングをして計画の見直しの必要性を判断している。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	現在はサービス担当者会議が行われていないため参加していないが、担当者会議があれば児発管が参加する予定。将来的には指導員の参加も検討していきたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	モニタリングの申し出があった時は積極的に受け入れる等連携した支援を行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	当事業所には医療的なケアが必要な児童や重症心身障害のある児童は通所していない。今後、通所を受け入れた際には必要な関係機関と連携をとり、支援を行う。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	当事業所には医療的なケアが必要な児童や重症心身障害のある児童は通所していないが、怪我等緊急事態が起きた場合の協力医療機関との連絡体制はすでに整えている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	特に情報共有を行っていない。必要に応じて保護者の方から依頼などがあれば、情報共有を行っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	特に情報共有を行っていない。必要に応じて保護者の方から依頼などがあれば、情報共有を行っていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	必要に応じて東京都・荒川区が運営する公開研修や療育セミナーに積極的に参加し、その中で助言を受けたり、情報収集を行っている。研修や助言を受けたら、必ず全職員に徹底共有をしている。
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	現在、保育所やこども園との交流などはない。	
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	常に必要に応じて情報を収集し、療育に活かしている。	

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名: TAKUMI 南千住教室

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		ペアレントトレーニングは特に実施していないため、今後、保護者と連携をとり、必要に応じ検討していきたい。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明しており、支援の内容は様々な状況で説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	契約時に児発管から説明を行っており、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	毎回、指導員や児発管が悩みを話せるように声掛けし、助言や支援を行っている。保護者からの相談等もミーティング時に必ず伝え記録も取り誰もが周知しているようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		父母の会や保護者会は行っていないが、通所時に保護者の見学スペースを設けており、そこで保護者同士で情報交換や相談等を行っています。現在はコロナ禍のため、開催はしていない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	苦情・要望は受け付けた時点で対応し、早急な改善に努めている。但し、内容によって一度預からせていただくこともあるが、基本的に1週間以内に何らかの形でお返事をするように心がけている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報等は発行していないが、長期休暇に行う特別プログラムの案内や新入社員紹介などは契約者全員に紙面で発信している。また、連絡事項は事業所内の分かりやすい場所に掲示している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	個人情報と思われる資料、個人名の入った書類等は、シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしているが、PC等からの個人情報へのアクセスについては、まだ不十分な面があるため、今後必要に応じて対応していく。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	情報の発信は手紙やLINEアプリで行っている。その他のツールは今後必要に応じて検討していく。児童との意思疎通や伝達は保護者の方に聞いたり、反応を見ながら絵カード等ツールを増やしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしておらず、今後必要に応じ検討していく。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	左記マニュアル類は存在し、職員には周知し訓練も行っている。訓練時に保護者への周知も行っている。	
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	定期的に年2回通所の療育中に、全クラスにおいて避難訓練を実施している。		
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	契約時に保護者への聞き取り、また定期的な面談で児童の変化について確認している。状況によっては、保護者に指導中の見学をしていただき、迅速に対応できるよう努めている。		

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名: TAKUMI 南千住教室

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	契約時に保護者への聞き取り、また定期的な面談で食物アレルギーについて詳しく聴取している。基本的には当事業所内で食事の提供はしていないが、ごくまれにイベント時に「おやつ」を配布することがある。アレルギー源を含むものは提供していないが、お菓子を配布する際は再度保護者にアレルギーの有無の確認を行うなど徹底している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ヒヤリハットについては、支援終了後のミーティング時に全員に聴取・把握を行っている。ヒヤリハット発生時には記録を残し、ファイリングして全職員で共有するとともに、今後の対応策を話し合いを重ね、対策している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	担当者が東京都主催の虐待防止の研修に参加。後日、時間を設けて参加者が講師となり職員に落とし込みをしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	身体拘束が必要なお子様は通所していないが、保護者の方に同意書を記入して頂いている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名: TAKUMI南千住

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17	1	0	0	走り回る十分なスペースがあり、息子が喜んでるのが分かります。	引き続き十分な運動量を確保できるよう適進してまいります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	16	1	0	1	常に複数のスタッフの方がいらっしゃいます。	引き続き職員の数を確保し、お子様の特性に合わせた支援を行ってまいります。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	14	0	0	4	危険な物は手の届かない場所にあり、鍵の設計も行き届いていると思います。	引き続き安全な環境でお子様へ支援が行えるよう配慮してまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	18	0	0	0	・非常に清潔です。 ・子ども達がのびのび運動出来るように工夫されている。	ありがとうございます。今後も整理整頓や清潔さを心がけ、安心して楽しく通っていただける教室づくりを目指してまいります。
適切な支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	18	0	0	0	一人ひとりの特性に合わせて計画していただいています。	今後もフィードバックや面談の内容を支援計画に反映させ、お子様の特性に合わせた支援を行ってまいります。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	17	0	0	1		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	17	0	0	1	・成長が楽しみなプログラムだと思います。 ・子どもの成長がとても感じられます。	ありがとうございます。今後もお子様の特性に合わせたプログラムを考案・実施してまいります。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	16	0	0	2	毎回違う楽しいプログラムで飽きないようです。	ありがとうございます。今後もお子様の特性に合わせた運動プログラムを考案し、「楽しい」を通してたくさんのご意見を身につけてもらえる教室づくりを目指して参ります。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	1	5	8		
保護者への 説明等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	17	0	0	1		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	16	0	0	2		
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	7	3	4	4		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	17	1	0	0		
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	16	2	0	0		
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	4	3	7	4		
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	16	0	0	2		
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	17	1	0	0	実施項目をその都度丁寧に伝えてくださいます。	フィードバックの場では、保護者様一人ひとりにお子様の様子を丁寧に伝えられるよう配慮しております。今後も継続してまいります。
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	11	2	0	5		
19 個人情報の取り扱いに十分注意されているか	16	0	0	2			

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2023年度

事業所名: TAKUMI南千住

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
非常時等の 対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	15	1	0	2		
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	17	0	0	1		
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	15	3	0	0	・行きたくないと言いつつ行ったら楽しんでいる。 ・とても楽しみにしています。 ・毎回楽しみにしています。	ありがとうございます。今後もお子様の特性に合わせた運動プログラムを考案し、「楽しい」を通してたくさんのお子様のことを身につけてもらえる教室づくりを目指して参ります。
	23 事業所の支援に満足しているか	18	0	0	0	・スキップがなかなかできず、本人が幼稚園で気に入っているようなので出来るようになったらと思います。 ・大変満足しています。	ご意見ありがとうございます。今後もお子様の特性に合わせたプログラムを考案・実施して参ります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 南千住

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令を順守したスペースは勿論のこと、建築基準法による用途を変更し運動のできるスペースを確保している。基準の2倍以上のスペースとなっています。サーキットを2つに分けたり、個々で取り組む回数や内容を変えたりして運動量が確保できるように工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	法令で定められている配置数に加え、保育士、児童指導員等、その他指導員のいずれかを1または2名以上を配置する体制を取っており、しっかりサポートできる配置を行っています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	当事業所内では、室内トイレの前に段差がある。このような段差がある場所に関しては、児童の特性にあわせて人的サポートを行い、転倒等事故が起きない配慮している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	ヒヤリハット、事故対策、会議議事録、感染対策、虐待防止対策、研修実施議事録、相談苦情、非常災害対策等々の担当者を割り振り、定期的なミーティングを行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	保護者向けアンケートを毎年1月に実施し、評価の悪い項目については、今後計画的に改善を図っていく。また、顧客満足度調査を実施し、業務改善に繋げていきたいと考えている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	当社ホームページにて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		現在第三者による外部評価は行っていないが、今後3年に1回は実施していきたいと考えている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	現在社内研修に参加し日々の支援への取り組みを見直し改善へ繋げている。また、外部研修には各自積極的に参加し、内容共有する機会を設けている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	児発管と指導員が、子どもの様子と保護者の要望を確認しながら、個別支援計画を作成している。保護者(本人)のニーズは、面談時だけでなく毎回のフィードバック時にも申し出て頂いています。また、日々の変化や様子等の記録を見て話し合いの元作成を行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	定期的に会議を行い、プログラムを立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	子どもの発達・成長に合わせ、必要に応じて臨機応変に行っている。また年間計画(運動)を作成し、定期的にイベントを開催している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	当事業所は日曜日が定休日であり、長期休暇中であってもサービス提供は平日と特段変わりがないため、基本的には同じ内容で実施している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	契約時に適性を見極め、各々のクラス設定を行っている。保護者とフィードバックを行い、学校や家庭での様子を伺いながら状況や課題を共通認識し、計画を作成している。支援終了後に年度替わりのクラス編成時にも、子どもが過ごしやすいクラスになるよう設定し、保護者への説明も行っている。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前に必ず打ち合わせの時間を確保し、パソコンで管理している課題をミーティングで話し合い、支援方法や役割分担を決めている。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 南千住

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を設け、一日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点を洗い出している。記録を残し、業務連絡を用いて休みのスタッフにも情報共有を図っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	サービス提供記録や独自の情報記録用紙(子どもの一言情報)に記入し、検証している。日々の記録等を踏まえ、ミーティング時に検証・改善に繋げている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、モニタリングをして計画の見直しの必要性を判断している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	総則の基本活動の中の「地域交流の機会」については、時間的な制約やプログラムの特性から行えていないが、地域交流の機会以外は、子ども一人ひとりのサービス計画に沿って、基本活動(自立支援・日常生活の充実のための活動等)を複数組み合わせ合わせて行っている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	現在はサービス担当者会議が行われていないため参加していないが、担当者から招集があれば児発管が参加する予定。将来的には指導員の参加も検討していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	送迎サービスがないこともあり、学校との情報共有は行っていないが、保護者から間接的に学校情報をもらうことはある。今後、必要に応じて学校との連携を検討していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	当事業所では、現在医療的ケアの必要な児童の通所はないが、今後受け入れる場合は主治医との連絡体制を整えていく。また、県の規約に沿った方法で受け入れ可能であれば柔軟に対応していきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	現在は就学前の各園との情報共有等は行っていないが、放課後等デイサービスや療育施設との情報共有や相互理解は要望があれば対応している。今後、必要に応じて検討していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	資料提供できる体制は整っている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	必要に応じて東京都・荒川区が運営する公開研修や療育セミナーに積極的に参加し、その中で助言を受けたり、情報収集を行っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	限られた営業時間の中で実施するのは難しく、現在は実施していない。保護者の声も確認し、今後必要に応じて検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	荒川区の協議会等へ児発管兼管理者が年2回は参加し、連携をとっている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。また、フィードバック時には取得したのや課題を毎時お伝えし、共通理解を図っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	ペアレントトレーニングは特に実施していないため、今後、保護者と連携をとり、必要に応じ検討していく。また、実施する際は、ペアレントトレーニングの外部研修も受講し、適切な支援に繋げていきたい。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時・更新時に説明しており、支援の内容は逐一必要に応じて様々な状況で説明しています。	



放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2023年度

事業所名 : TAKUMI 南千住

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	毎支援後、保護者が悩みを話せるように、進んで指導員や児発管から声掛けをし、助言や支援に繋げている。保護者の相談内容等も記録に残し、ミーティング時に全スタッフに周知して、どのスタッフが対応しても保護者への返答に違いが出ないように共通認識を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		現在はコロナ禍ということもあり、父母の会や保護者会は開催できていない。療育の際、保護者の見学スペースにて保護者同士で情報交換等を行っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	苦情・要望については、受けた時点で都度対応し早急に改善している。意見箱の設置や専用お問い合わせ窓口の設置は今後必要に応じ検討していく。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報等は発行していないが、長期休暇に行う特別プログラムの案内や新入社員紹介などは契約者全員に紙面で発信している。また連絡事項は事業所内の分かりやすい場所に掲示している。LINEアプリを活用し、講演会等もご案内している。	
	35	個人情報に十分注意している	個人情報と思われる資料、個人名の入った書類等は、カギ付き書庫の中に保管している。破棄の際はシュレッダーを用いている。PC等の電子媒体の個人情報のアクセスは、まだ不十分な面があると考えているため、今後必要に応じて策を検討していく。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	情報の発信は手紙やLINEアプリを使用している。今後はご利用者様の障がいにあわせて検討していく。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	左記マニュアル類は存在し、職員には周知済みで定期的な研修の他、訓練も行っている。また、訓練時に保護者への周知も行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	職員間で役割分担等を決め、共有している。定期的に年2回ほど療育中に、全クラスにおいて避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	担当者が東京都主催の虐待防止の研修に参加し、参加者が講師となり職員に講習している。また社内研修として定期的実施しております。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	マニュアルも作成し、組織的に決定しており、児童や保護者へ契約時に必ず説明し、了承を得ている。現在、当事業所において拘束等は行われていないが、担当者が研修に参加しているため、今後必要に応じ検討していく。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	契約時のフェイスシートと面談により、食物アレルギーについては詳しく聴取している。当事業所内で職提供はないが、イベントでお菓子を配布する場合、アレルギー源を含むものは提供していません。また、念のため子どもに渡すお菓子は保護者に確認をとり、子どもにも保護者監視下のもとで食べるように指導を行っている。医師の指示書は、今後必要に応じて検討・対応していく。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度記録を残し、全職員で共有するとともに、今後の対応策を話し合い・実践しています。	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

事業所名: TAKUMI南千住

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	23	4	3	0	高学年には少し狭いと思いません。	お子様の体格に合わせて人数を調整してまいります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	30	0	0	0		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	16	3	1	10	子どもばかり見ていて手すり等あったが、覚えていません。	トイレ前の段差以外はバリアフリー化しています。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	29	0	0	1		
	5 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	28	2	0	0		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	3	11	15		
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	29	1	0	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解ができているか	30	0	0	0		
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	30	0	0	0		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	4	17	8	待っている間に他の保護者達と話をしているので必要ないと思います。	父母の会や保護者会等の開催は未定ですが、ご希望いただければ見学が可能となっております。活動中に保護者同士が関われる場所となっております。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	19	3	0	8	苦情が一切なく、安心して子どもを預けられます。	ありがとうございます。引き続きお子様と保護者の方に安心して通っていただけるよう邁進してまいります。
	12 子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	29	1	0	0		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	17	0	6	7		
14 個人情報に十分注意しているか	29	1	0	0			
非常時 等	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	24	4	1	1		

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

事業所名: TAKUMI南千住

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
寺 の 対 応	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	30	0	0	0		
満 足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	25	5	0	0	自宅を出る時は行き渋りがありますが、行けば楽しんでいきます。	今後も引き続き、通所時からお子様の表情・様子を確認し、活動内容に十分に気を付けてまいります。いつでもお子様が安心して楽しく活動が出来るように心掛けます。
	18 事業所の支援に満足しているか	28	2	0	0	子どもが大きくなり、物足りなくなっているかもしれない。	お子様の成長に合わせて運動の内容を変えておりますが、プログラム作成においてスタッフ間で共有し、よりよい運動メニューを提供してまいります。

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせで実施されることが想定されている。